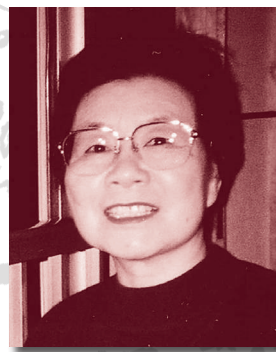


## 「床屋さんを二人三脚で」 - 理容師一筋の半世紀 -

やべひろこ  
矢部博子

1940年(昭和15年)  
江戸川区松江生まれ  
松江在住



### 理容学校と理容組合

江戸川区立松江第三中学校を卒業してから、千代田区九段にある都立東京都理容学校に入学しました。理容学校で最初に習ったのは「顔そり」です。ゴム風船に泡をつけて練習します。私の家は床屋(理容室)をやっていたので、家でも家族の顔を借りて練習しました。散髪は、船上生活者の子どもたちのところに行って、ヘアカットモデルになってもらいました。当時、木場(江東区)などに「だるま船」といって、船で生活しながら船で荷物を運ぶのを生業としている人たちがいたんです。

理容学校で1年間学び、それから学校で紹介された高輪(港区)のお店でインターンとして1年間働きました。高輪までは家から通いました。国家試験を受けるには学校で1年、実務期間が1年というのが条件です。

私が理容師になった頃には、すでに理容組合(東京都理容生活衛生同業組合、昭和32年(1957年)11月発足)というのでできていました。組合に加盟している人たちが休みもバラバラじゃまずいっていうので、定休日を決めようとしても決まらない。1軒1軒が個人事業主なので強制はできませんよね。うちの店には定休日はありませんでした。休みは月に1回。お盆は15日と16日の2日間、正月休みは4日間くらいです。

仕事が休みの日の楽しみは映画を見に行くことです。新小岩にあったコンパルという映画館によく行きました。また、テニスやスキーも楽しみました。皇太子のご成婚(昭和34年(1959年))があってから、テニスがブームになっていたんです。スキーは新潟などへ夜行日帰りです。夜、列車に乗って翌日の夜に帰ってくるというものです。列車の床に新聞紙を敷いてそこで寝るんです。



◆矢部理容室(2002年撮影)

昭和40年(1965年)頃、理容組合に「お見合い制度」というのができました。私の父が江戸川の支部長をやっていて、お見合相手の勤めている錦糸町のお店のご主人も、理容組合の支部長でした。そういうつながりで「こういう制度ができたから会ってみないか」となったんです。お見合いしたのは昭和42年(1967年)頃かな。それから1年後くらいに結婚しました。夫32歳、私28歳でした。私たちがお見合い制度を利用して結婚した第1号でした。相手に婿入りしてもらうことができ、とても幸運でした。子どもは男が2人です。

私が結婚した頃には、両親はあまりお店には出ていませんでした。それまでの両親は本当に休みなしでやっていたね。1年で一番忙しい年末など、母は体がもたなくなるまで働き、栄養剤を打って頑張っていました。私の代になってからは、私たち夫婦と姉、従業員で椅子3台を使ってやっていました。

家族だけでやっているお店は少ないですね。まだ、徒弟制度が残っていたので、仕事を覚えるためにお店に行き行って修業する人もいました。店主が「この人は一人前」と認めれば、保健所へ申請して許可が下りるというシステムです。お店によっては、部屋を与えるところもあるだろうし、何人か一緒に共同生活するところもあるだろうし、通いのところもあるだろうし、いろいろですね。

### 道具と髪型の思い出

道具は使う人によってそれぞれ手の癖があるので、ハサミや剃刀は自分専用の物を持ち、自分で手入れして管理します。ハサミは、切れ味が落ちると髪の毛が逃げてしまうんです。切ってもまっすぐ切れず、毛先が動いてしまいます。そうすると、きれいにきちつとつかない。だから、ハサミや剃刀は1週間に1回は砥石で研ぎます。砥石を使うにも人それぞれ癖がありますから、誰かに研いでもらうというわけにはいかないんです。自分で研ぎます。

床屋の道具に馬の皮を使ったものがありました。「革と砥」といいます。表は馬のお尻あたりの上質の皮でできていて、裏は布地になっています。砥石で研いだばかりの剃刀は、刃が鋭すぎて皮膚に当たると痛いんです。それ



江戸川区  
聞き書き  
研究会

聞き書き研究会は、江戸川区を愛し、江戸川区で強く逞しく生きた女性の姿を聞き書きとして残すため、江戸川区女性センターの区民ボランティアが2010年に始めた活動です。女性センターは2020年に人権・男女共同参画推進センターに統合され、この活動を所管しています。



で革砥にこすりつけて刃先を丸くしてから使います。まず、砥石で研いだ剃刀を革砥の裏の布地に当てて、それから表の革に当てます。革砥は1週間に1度馬油をつけて手入れします。革砥がなくなったら替刃を使うようになりました。

また、顔やひげそりをするときに泡立てるタヌキの毛のブラシを「毛ブラシ」とか「髭ブラシ」と言います。私の時代には都市ガスが入っていましたが、両親の時代には炭やコークスで湯を沸かし、溜めて使っていました。

髪型は時代によって流行があります。女の子のおかっぱ頭は前髪を切りそろえ、こめかみの辺りに段をつける。これが一番難しいです。男の子はバリカンでカット。家でやってどうにもならなくなり、うちの店にくる人もいました。トラ刈りの縞模様が取れなくて苦労しました。戦後は「リーゼントヘア」が流行しました。アメリカのロック歌手エルヴィス・プレスリー(1935-1977)がしていたヘアスタイルで、髪の毛をポマードなどの整髪料で固めるんです。昭和30(1955)年代は「慎太郎カット」といい、バリカンでサイドを短く刈上げ前髪を額にかけたスタイルです。石原慎太郎さんが芥川賞作家(昭和31年(1956年)受賞)として新聞に取り上げられ、慎太郎カットがブームになりました。その後には裕次郎が出てきたんです。同じ刈上げでも慎太郎と裕次郎では微妙に違うんです。昭和45年(1970年)頃から流行したのが「パンチパーマ」。形が崩れにくく洗髪が楽ということで、仕事でヘルメットや帽子をかぶる建設業の人びとに好評でした。新しい髪型が出てきたときは、講習を受けて勉強します。

## 床屋を二人三脚で

私は江戸川区の松江で生まれました。両親はその場所で床屋(理容室)をやっていました。私は7人姉妹の4女です。私のすぐ上の姉とすぐ下の妹は亡くなっていました。子どもの頃はお転婆な子でした。小学校に入ったのは終戦直後でしたので、裏にゴムを貼ったゴム草履を履いて学校へいきました。都電が走っていましたが、小学校高学年の頃には都電が廃止され、松江商店街に沿って今井から上野までトrolleyバスが走っていました。小中学校とも地元の学校を卒業しました。



◆夫と旅行先で

一番上の姉は関東配電(現・東京電力)にお勤めし、2番目の姉は理容師になりました。姉たちは家を継ぐ気はなかったようです。それで、私は覚悟を決めて家を継ぐことにしました。私

と父は合わなくて喧嘩ばかりしていました。父にとっては一番憎たらしい子が跡継ぎになったんです。でも、父はとても喜んでくれました。

自営業なので、朝はお客さんがくれば仕事を始め、夜はお客さんがいれば終わるまで。朝ゆっくり寝ていると「まだやんないの?」とお客さんに起こされます。

お店のある松江地区は商店や町工場などの自営業が多く、金属加工、プレス、旋盤屋、鍛冶屋などがあります。町工場や商店で働く人には地方出身者の方も多かったですね。商店は、みんな夜の8時9時までやっていました。皆さん、月に1度は来てくださっていましたが、昔はどこかに出かける、何か用事がある、行事がある、そういう時は先ず床屋へ行って頭や顔をさっぱりさせる、大部分の方がそういう感覚をもっていましたね。床屋の料金は入浴料金の10倍というのが基準でした。

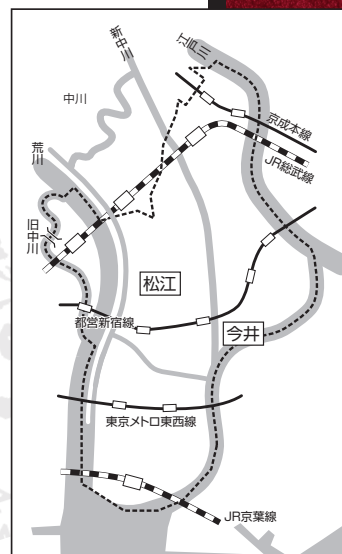
## 地域とともに

自営業の床屋は、ふだんでも食事の支度や食事時間がきちんと取れないんです。お客さんがくれば食事を中断し仕事をします。また、月曜日が定休日なので、祝日でもなければ子どもと一緒に出かけるというのができなかったですね。

1年で一番忙しく大変だったのは、やはり年末ですね。商店では「お通い帳」というのがありました。信用取引の売掛帳です。お客さんはその場で払うのではなく「付けといて!」と言って、月末やお盆、年末にまとめて支払うというものです。商店にとっては、この年末の集金が一番大きな仕事です。そして、大晦日に集金が終わってから床屋へ来るわけですよ。当然、時間は遅くなります。床屋は除夜の鐘を聞いてもまだ仕事をしている状態ですからね。「おめでとうございます」という声がどこからともなく聞こえてきます。私たちも仕事が終わったら、お風呂に行きたいじゃないですか。風呂屋の営業時間はもう終わっている。特別に頼んで裏から入れてもらい、湯船の蓋をちょっとずらして中に入りました。それぞれがお互いさまの気持ちでやっていましたね。昔は、年末には身ぎれいにし肌着は新しいものにするなどして、新年を迎えたものです。

私が80歳になる年の夏にお店を閉めました。なかなかやめるきっかけがなかったけど、夫が座骨神経痛になって一時動けなくなり、私もその後病気になることになりました。

夫と2人、床屋一筋でした。仕事でやりがいを感じるの、お客さんがきれいにさっぱりして帰られたときですね。長年やっている、ただ単純にお客さんというだけではないんです。やっぱり気持ちの交流というのはありますよね。そういうのは誰もみんなもっていると思いますよ。



◆インタビュー/2023年5月  
/2023年6月

◆聞き手/小宮和枝 山本園子  
◆コーディネーター/樋口政則

◆お問い合わせ◆  
総務部総務課  
人権啓発係  
☎6638-8089